

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座 講師
氏名 Name	大塚 行誠
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ミャンマーにおける少数言語の基礎調査
<p>平成 29 年度は、ビルマ語教育および教材開発と並行して、ミャンマーとインド北東部におけるチン系少数言語の記述言語学的な研究とフィールド調査を行った。本研究の主な目的は、ミャンマーにおいて研究蓄積の乏しい少数言語の基礎資料（語彙資料・音声資料・文法スケッチ）を蓄積し、言語学的な観点から分析することである。以下、[1] から [3] の 3 点に分けて研究調査活動と業績の詳細を報告する。</p> <p>[1] アショー・チン語およびウッパー語 研究分担者を務める基盤研究 (B)「ビルマの危機言語に関する緊急調査研究」(研究課題番号：17H04523)の調査活動の一環として、2017 年 8 月 22 日から 9 月 17 日までミャンマーのヤンゴン市とピイ市においてアショー・チン語とウッパー語の調査を実施した。現在、基礎データベースの作成を進めている。</p> <p>[2] ラルテー語とボム語 研究代表者を務める若手研究 (B)「インド北東部におけるボム語の調査と文法記述」(研究課題番号：17K13442)の調査活動の一環として、2018 年 2 月 12 日から 2 月 24 日にかけてインドのアイゾール市とミャンマーのヤンゴン市でボム語、ラルテー語とその周辺言語に関する調査を行った。ラルテー語については、再帰・相互標識に関する論文を執筆した。</p> <p>【論文】 大塚行誠 (2017)「ラルテー語における再帰・相互標識 -du:n/」『東京大学言語学論集』38: 233-245.</p> <p>[3] ティディム・チン語 ティディム・チン語における来辞 <i>ɔŋ-</i>と去辞 <i>và-</i>について、これまでの研究成果をまとめ、ジンポー語研究者の倉部氏と共に、方向接辞に関する諸相と題して共同発表を行った。</p> <p>【学会発表】 大塚行誠・倉部慶太 (2017)「ティディム・チン語とジンポー語における方向接辞の対照」日本言語学会第 155 回大会ワークショップ『チベット・ビルマ語派における「方向接辞」の諸相』発表。立命館大学、2017 年 11 月 26 日。</p>	